

古民家調査について

1 概要

加藤建夫邸は、江戸時代後期（18世紀末頃）に鳥居建形式で建造された、市内では最古に類する木造家屋である。当該古民家の歴史的意義を、今後は市民の財産として生かすために、有形文化財指定を前提に、文化財の保存・活用の観点から、移築して活用を検討するにあたり、必要な補修、補強を行うための調査を行った。

2 対象家屋

(1) 所在地

長久手市岩作石田地内

(2) 規模

桁行実長8間、梁間実長4間

(3) 建立時代

江戸時代後期（明治24年に瀬戸の品野村（当時）より移築）

(4) 間取り

広間三間取（復元）

(5) 概要

木造、平屋建て、入母屋造、茅葺（鉄板張り）、鳥居建形式

3 今後の予定

文化財指定の審議、実施設計、解体工事、復元工事を行う。



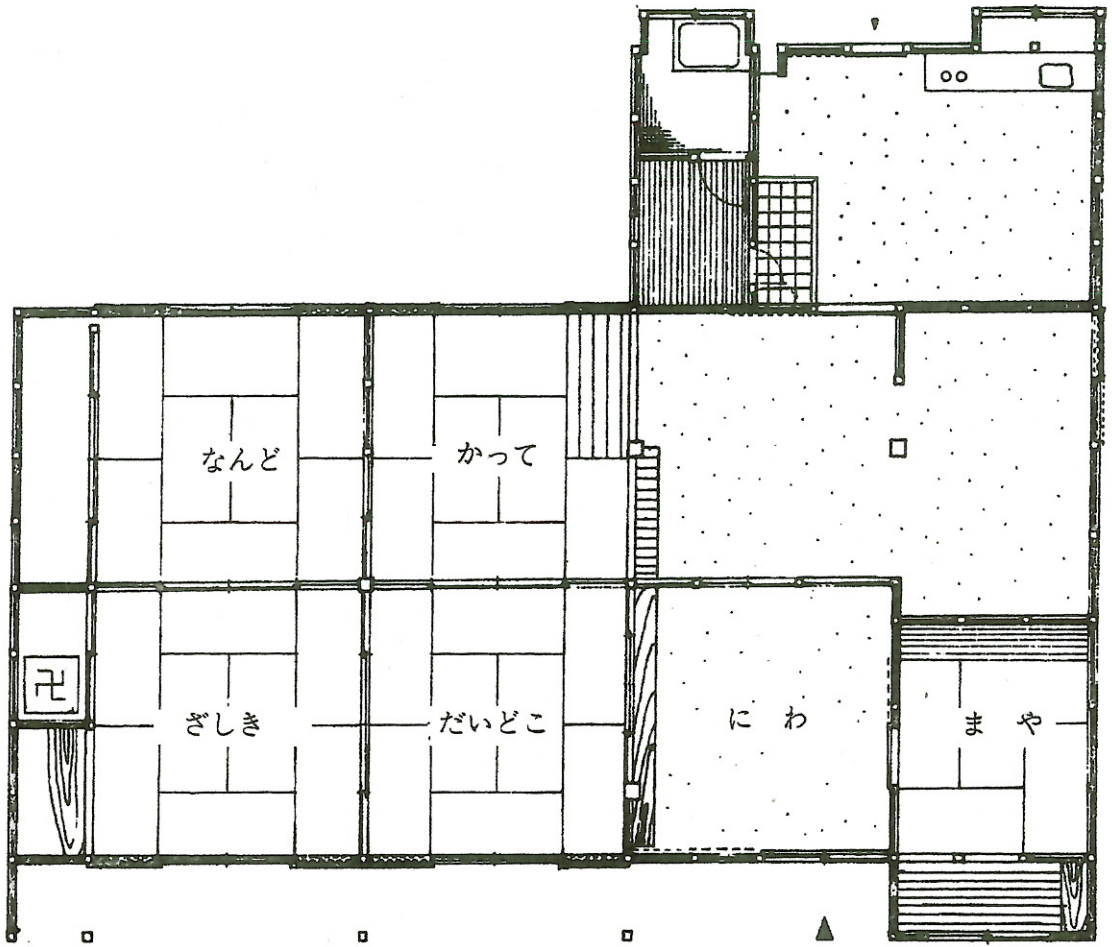
写真-3

主屋前面

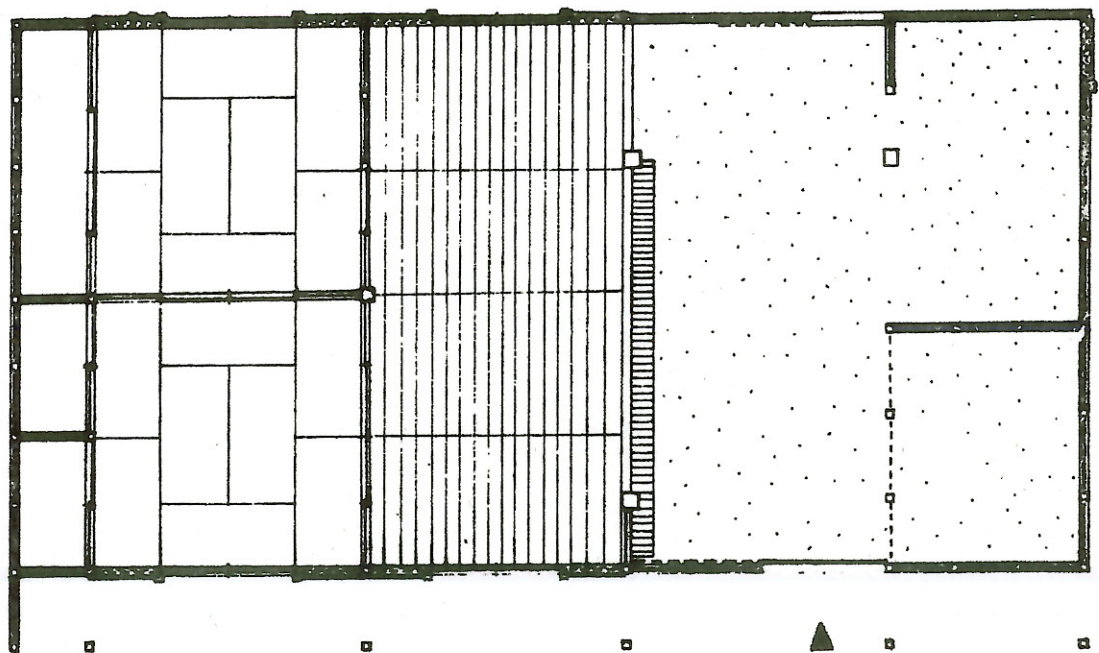


写真-4

主屋正面



加藤建夫住宅平面図



加藤建夫住宅復原平面図